

C 173 茶懐石の研究(千利休、松平藩、京極藩)

香川矩夫 ○丸岡美代子

目的 日本料理の原点である茶懐石を大成した千利休の茶料理を調査し、讃岐の松平藩及び京極藩の懐石の内容と比較検討して、時代性、地方性等を考察する。

方法 利休懐石から三席、松平藩(高松五代藩主、頼恭)茶事記より三席、京極藩(文亀五代藩主、高朗)茶事記より三席を夫々選んで分析する。

- 結果
- 1) 利休の懐石は、当然のこと乍ら他が茶の精神を小まめた簡素な料理内容であり本膳の豪華料理に対する革新的な料理である。
 - 2) 松平藩の懐石は利休から150年を経ても内容的に利休懐石に近いものがありわが茶を大切にし、質素を旨とした藩精神の反映が考えられる。
 - 3) 京極藩の懐石は松平藩のそれよりさらに50年を経たものであるが、同じ讃岐の同であるのに拘らず、書院風で、他が茶の精神からかなり離れた豪華性がみられ、経済的な地域性の反映が考えられる。